

## 令和7年（2025年）の海徳海山の火山活動

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

気象衛星ひまわりによる観測及び海上保安庁による観測では、噴火は認められませんでした。

### ○ 噴火警報・予報の状況、2025年の発表履歴

2月14日11時00分	噴火予報を発表し、噴火警報（周辺海域警戒）から噴火予報（活火山であることに留意）に引き下げ及び火山現象に関する海上警報（周辺海域警戒）を解除
-------------	--

### ○ 2025年の活動概況

気象衛星ひまわりによる観測では噴火は認められませんでした。

また、海上保安庁により繰り返し実施された上空からの観測では、周辺海域での噴火は確認されず、顕著な変色水等の特異事象も認められませんでした。

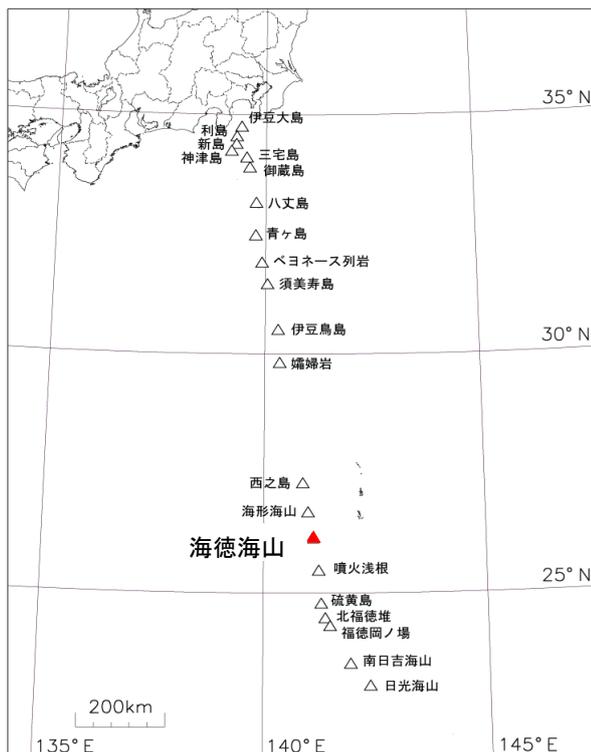
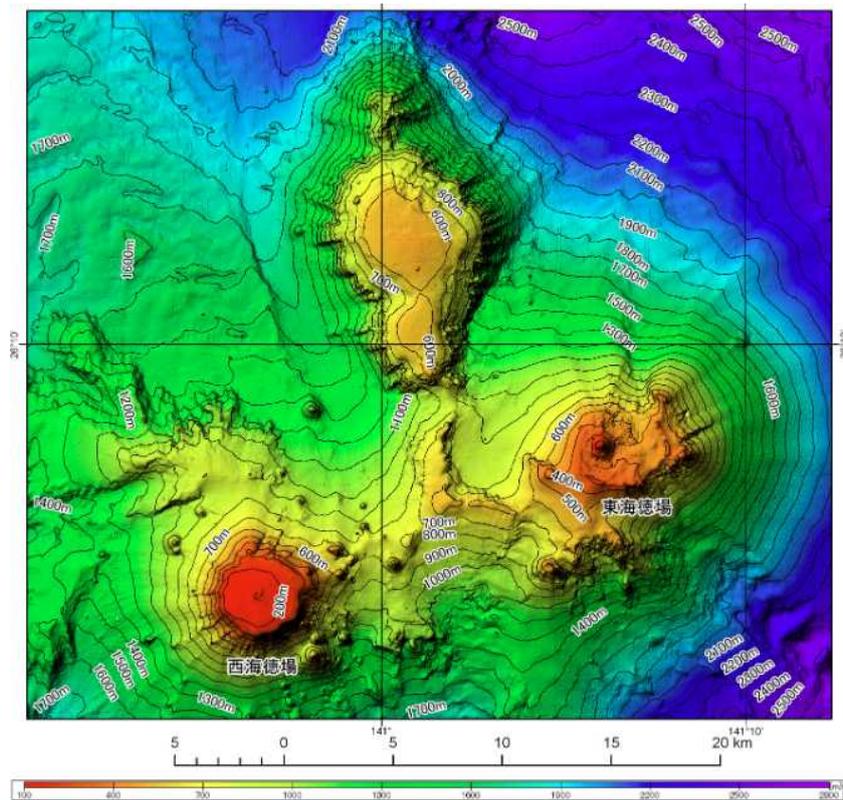


図1 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び海徳海山の位置図

海徳海山は、東京の南約1050km、小笠原諸島母島の南西約120kmに位置します。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。  
[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)  
 本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。  
<https://www.jma.go.jp/jma/ki-shou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>  
 この資料は、海上保安庁及び海上自衛隊のデータを利用して作成しています。



海徳海山は3つの峰から構成されます。南にある2つの峰はその位置により、それぞれ東海徳場、西海徳場と呼ばれています。

図2 海徳海山付近の海底地形図

2022年8月23日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、海徳海山を構成する3つの峰の1つである東海徳場とほぼ同じ位置の海面上で変色水が確認されました。東海徳場の水深は97m、位置は北緯26度7.5分、東経141度6.0分です。

(海底地形図、東海徳場の水深及び位置情報は海上保安庁海洋情報部 海域火山データベース (<https://www1.kaiho.mlit.go.jp/GIJUTSUKOKUSAI/kaiikiDB/kaiyo20-2.htm>) を引用し、海底地形図には加筆)

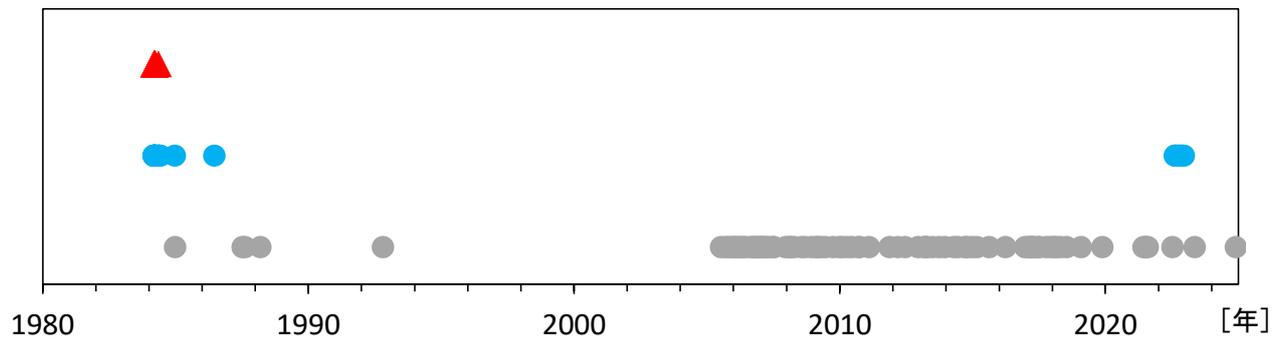


図3 海徳海山 1980年以降の活動状況

シンボルがあるタイミングで観測が行われています。▲は噴火、噴煙または軽石の浮遊（1984年）が認められた観測を示します。●は変色水が認められた観測を、●は変色水等特異事象が認められなかった観測をそれぞれ示します。

海上保安庁、海上自衛隊、気象庁、漁船及び報道機関等の観測による。